

渡辺ハウジングOBの皆様と  
未来のお客様にお届けする

# やすらぎ通信

渡辺ハウジング  
03-3959-8743



春3月。

冬籠りをしていた生き物たちも土の中から顔をのぞかせるような季節になりました。

私たちも、重いコートを脱いで

ちよっと出掛けてみませんか？・・・なんて、どこかで聞いたことのある歌詞のようですね。

今年は、桜の開花が例年よりも早くなりそう

との予報が出ており、とても楽しみです。

こころ華やぐ春の到来も間近かもしれません。

素敵な春との出会いが沢山ありますように！！



各学校や職場では、期末を控え何かとお忙しいことと思いますが、どうぞお元気でお過ごしください。

建築のいろはにほへと・・・？

## 【坪単価って何？】

住宅の広告チラシなどでよく目にするのが「坪単価」という言葉と数字。

住宅価格の目安と言われていますが、正しい知識を持っていないと思わぬ誤算を招く恐れがありますので、しっかり理解しておきましょう。

「坪単価」とは、単純に言えば住宅の「価格（円）」を「面積（坪）」で割ったもの。

言い換えれば「面積」あたりの「価格」です。

しかしながら、この「価格」と「面積」の基準を定めるものはなく、住宅会社ごとに独自の基準によって算出しているのが現実です。

したがって、広告チラシなどでは「坪単価」を安く表示した方が顧客に与える印象がいいので、「価格」に含める範囲を小さくして「価格」を低くしたり、「面積」に含む範囲を大きくして「面積」を広くしたりして、結果的に「坪単価」を安く表示している住宅会社もあります。

また、住宅会社によって、使用している設備や建材などのグレードもさまざまなので一概に「坪単価」だけで住宅の価格を判断することは難しいといえます。

坪単価に含まれる範囲は、概ね、どの住宅会社でも

「本体価格（本体工事にかかる費用）」と表示している場合がほとんどです。また、住宅会社によっては、全体予算まで提示したうえで契約が済んでから、出窓や収納棚など当然のごとく本体価格に含まれていると思っていた工事が別途で、追加費用を加算されてしまうケースもあります。

実際に安い価格で契約した後、追加工事で利益を確保しようとするような住宅会社もあるのが現実です。

広告チラシの「安い坪単価」につられて契約したものの、結果的には予算オーバーになってしまったというケースも少なくありませんのでくれぐれも注意が必要です。

## 「木の芽時」

「木の芽時」は、旧暦2月の異称ですから、現在でいえば3月頃になるのでしょうか。

それぞれの冬芽が膨らんで、小さな葉が出てくるまでの間、私たちは花にも劣らないさまざまな木の芽の華やぎを楽しむことができます。

また、この時期は、季節の変わり目で体調を崩すことも多くなりがち。

心も不安定な気候の影響を受けるのかもしれませんが、けれど、新芽はエネルギーのかたまり。あの小さな芽の中に、希望がいっぱい詰まっているとさえいえます。

樹木だけではなく、土の中からも、道路の片隅からも、みずみずしい芽が顔をのぞかせる季節。

私たちの心の中にも、何か新しい芽をはぐくんでいけたら素敵ですね。



こんな人になりたい・・・

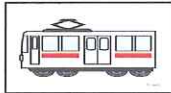


3月に学校を卒業し、いよいよ、この4月から社会人になる方も多くいらっしゃることでしょう。

期待と不安が入り混じる中、様々な経験をするとはいませんが、毎日の通勤途中で、こんな場面に出会うこともあるかもしれません。

そんな時、皆さんならどうしますか？

これは、ある女性の体験談です。



私は体調が悪い中、朝の通勤ラッシュに揉まれていました。

前日から少し体調が思わしくなかったのですが、どうにか出勤しようと電車に乗り込んだのです。

いつものように車内はとても混雑していました。

途中の駅で人波に押され、電車からホームに一旦降りた私は耐え切れずホームの端に座り込んでしまいました。そこから動くこともできず蹲っていました。

私の横をたくさんの方が慌ただしく小走りで行き交っていました。

私が乗っていた電車から降りた人波は通り過ぎ、また次の電車がホームへ入ってきました。

そして又たくさんの人波がホームへ流れ出てきました。私の吐き気はいつこうに収まりません。

どうしよう・・・。

行き交う人の邪魔にならないように気遣いながらじっとしていると突然声を掛けられました。

「大丈夫ですか？」

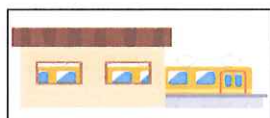
顔を上げると若い女性が傍らに立っていました。

力なく頷くと、その女性は心配そうに私の顔色を見て言いました。

「ベンチに移動しましょうか？」

そう話している間にも又、次の電車の波がやってきました。

その時です。



どうにか立ち上がろうとした私に、急いで走ってきた人がぶつかってきました。それも思いっきり・・・。

私は体を支えられずにその場に倒れてしまったのです。

「危ない。大丈夫ですか！」

若い女性は驚いて大きな声で訊いてくれました。

その声で駅員さんも気づいて私たちの方へ来て

くれ、二人に支えてもらいながらベンチに移動。

少し休んでいると多少気分が落ち着いてきました。



助けてくれた女性には、何度も、もう大丈夫ですと伝えましたが、しばらくの間、傍にいてくれました。

用事を抱えていたであろうその女性には申し訳ないとは思いながらも、とても心強かったのです。

結局その日は会社に連絡をして欠勤することにして帰宅しました。家で休んでいるうちに気分も良くなりホッとしましたが、知らない駅で一人蹲っている自分を想像すると恐怖感と不安感が甦ります。

ありがとう  
ございました

助けてくれた女性には、後日お礼をすることができましたが、今でも感謝の気持は忘れていません。

私も、あの女性のように、困っている人がいたら助けてあげられる人でいたいと思っています。

「編集後記」

またあの日（3月11日）が巡ってきました。

想像を超える甚大な被害をもたらした東日本大震災から5年。

未だ行方がわからない2,500人以上の方々、辛い避難生活を強いられている多くの方々、遅々として進まない復興・・・。

何もできない自分の無力さを思います。

あの頃連日目にした「絆」という言葉は何処へ？

もう一度原点に立ち戻り、それぞれができる形で応援していきましょう。大丈夫、皆さんのことは決して忘れてはいませんから。

新しい春に向かって、元気に前進しましょう！

今月号もお読みいただき有難うございます。

※「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

また、ご不要の方もご一報ください。

編集責任者

渡辺 田鶴子

